

街をつくる



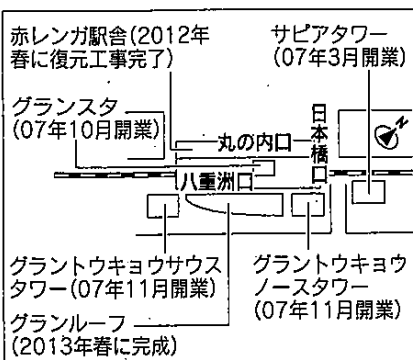
東京駅周辺の姿が大きく変わってきている。昨年は八重洲口側に、計十四大学の事務所が入る高層ビルや、商業施設が入居するツインタワーなどが相次ぎ開業。東京駅丸の内駅舎を開業当時の姿に戻す工事も始まる。ビジネス街としての機能に、文化や娯楽といった新たな要素が加わり、「東京の表玄関」としての存在感が増している。

○七年三月に八重洲口北方面に開業した地上三十五階建ての高層ビル「サビアタワー」。十階の事業創造大学院大学(新潟市)の東京キャンパスでは、大型テレビに映る約三百メートル離れた本

東京駅周辺、大型商業施設など続々

「首都の表玄関」多彩な顔に

ビジネス街に文化・娯楽



昨年11月に開業したツインタワーが赤レンガの丸の内駅舎後方にそびえる

記者の目

駅の構造複雑化 ソフト面に課題

東京駅周辺ではツインタワーなど、地域の核となる商業施設が生まれるにつれ、カッパルやファブリーが休日を訪れるケイスも増えているという。JR東日本など開発事業者の狙い通り、東京

駅周辺の街の魅力は高まっている。ただ、急速に開発が進むなかで、東京駅の構造がより複雑になったこの声も聞こえる。頻りに利用するビジネスパーソンですら道に迷うほど、施設は広大だ。誰でも分かりやすく行きたい場所に行ける。そんなソフト面での改善も今後の課題だろう。(押切智義)

さらなる新施設の開業で、「今後も利用客は増えるはず」(進藤クレーター)

開発の焦点は東京駅の景観刷新に移る。一二年春までに、赤レンガで親しまれた丸の内駅舎が、約九十年前の開業当時の姿に復元される。また、八重洲口にある旧大丸のビルを取り壊すほか、バス乗り場を整備し、ツインタワー間を全長約二百四十メートル、高さ最大二十七メートルの巨大な屋根「グランルーフ」で覆う工事が、一三年春まで続く。

さらに東側で、東大の講義に、受講生が熱心に耳を傾ける。同大では夜間にビジネススクールの講義を受講できる。「仕事帰りに通って便利」と都内の会社で働く三十代の女性は笑顔で話す。

14の大学が入居した同タワーに入居する大学の高岡琢磨・営業部マネジャーは語る。

地上約四十階建てのツインタワーが八重洲口に開業した。「グラントウキョウサウスタワー」「同サウスタワー」だ。ノーマルなオフィスビルから一階から五千人から〇六年には三十八万二千人に増えた。丸の内ビルディングなど大型の複合商業施設が、保ちつつ、より現代的な機能を持つ都市に変貌を遂げている。

景観改善に焦点

「東京駅の日平均の利用客は〇二年の三十七万五千から〇六年には三十八万二千人に増えた。丸の内ビルディングなど大型の複合商業施設が、保ちつつ、より現代的な機能を持つ都市に変貌を遂げている。

「二十世紀の東京にふさわしい姿になる時がきた」と森田雅文・東京都都市整備局開発プロジェクト推進室長が語る。ように、歴史的な景観を

住建・不動産